

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年6月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年6月1日発行 通巻242号(毎月1回発行)

夏山シーズンです

計画書の作成から始めよう

6月号 目次

・ 目 次	2
・ 花博士の花便り	中原 紀代治・・・3
・ 平和音楽会案内	4
・ ハイキング委員会リレーエッセー	佐藤 かほる・・・5
・ ハイキング委員会リレーエッセー	安彦 秀夫・・・8
・ ハイキング委員会報告	11
・ 救急法講習会	教遭委員会・・・12
・ 県連統一クリーンハイク報告	自然保護委員会・・・13
・ 足尾植樹祭参加報告	菅井 修・・・14
・ 戸隠コンサート&ハイキング報告	「ゆう」・・・15
・ 千葉土建ウオーキング大会参加報告	広木 国昭・・・22
・ 県連便り	23
・ 6月・7月予定表	24

表 紙 説 明

NPO法人「ちば労山ゆう」は、戸隠コンサート&ハイキングを実施した。この取り組みは、昨年11月29日に行った「石巻支援の夕べ」に戸隠から参加した糸賀さんに応えて、石巻から矢口さんが参加してジョイントが実現した。参加者はお二人の熱演に拍手を贈り、大いに歌った。

そして、戸隠の山々、自然を満喫した2日間だった。心を、思いを一つにして歌った仲間に乾杯したい。

花博士の花便り

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

ウツギの花

卯の花の匂う垣根にホトギス早も来鳴きて、・・卯の花は、**ウツギ**（空木）でユキノシタ科ウツギ属です。歌にちなんで、匂いを嗅ぎましたが香りはありません。ウツギで匂うのは、バイカウツギです。花が梅の花に似て、花もウツギに比べ少し大きく庭に植えられます。ヒメウツギ、マルバウツギ、など同属ですが、ノリウツギ、ガクウツギはアジサイ属です。他のウツギと名の付く花でタニウツギ、ハコネウツギ、ニシキウツギ、ツクバネウツギ、などは“スイカズラ科”に分類されています。ドクウツギ（科・属も同じ）バラ科のコゴメウツギなど有ります。

5月3日に、“あしかがフラワーパーク”に藤の花を見に行きました。丁度見ごろでした。花も人も凄い。幹周りが4・5mの**ノダナガフジ**が3本もあり見事でした。大藤は花の長さも1m以上あり5・600畳も蔓を伸ばして隙間なく咲き誇っていました。八重咲きの花は、ヤエコクリュウ（八重黒龍）ブドウの房の様な花が咲きこれも大きく綺麗でした。シロフジのトンネルやシャクナゲ・ツツジ類も最高でした。

通常フジはノダフジのことで、（マメ科、フジ属 つる性落葉木本）大阪市福島区野田から名付けられた。蔓の巻き方は上部より見て右回り。花序が20～100cmと長いのが特徴、私の近くで咲く藤はヤマフジ、蔓の巻き方は上部より見て左回り。シロフジも同じです。ヤマフジが終った後、近くの山で薄紫の藤があり写真に撮り調べました、**ノダフジ**の様です。



ウツギ



ノダノナガフジ



ヤマフジ

第26回 平和を願うコンサート

愛と平和のうた

2013年 7月7日(日) 2:00p.m. 開演(開場 1:30)

千葉県教育会館ホール

全自由席 前売券 1,800円 / 当日券 2,000円

(高校生以下 1,000円)

第1部

二つの田園詩	長沢勝俊	尺八 井上喜義 箏 井上久子 十七絃 菊池紀子
子守歌 他	ショパン	ピアノ 桐生啓子
スペイン舞曲 他	グラナドス	ヴァイオリン 渡部玲子 ピアノ 柳瀬洋子
木管三重奏曲	紺野陽吉 (日本初演)	フルート 大竹泰夫 クラリネット 金元 ファゴット 加藤洋男
「愛吉・スズのバラ」 他	作詞 藤谷秀子 新婦人コーラス 作曲 神野和博	ひまわり 指揮 遠藤久江 ピアノ 柴田優美子

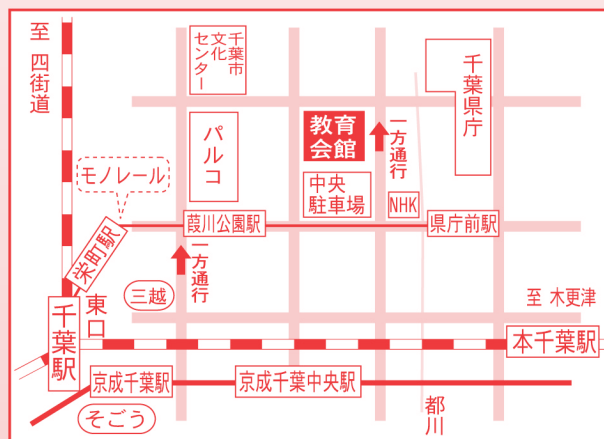


第2部

愛 引き潮満ち潮	安藤由布樹	合唱 スカーレッツ ピアノ 安藤由布樹
「lea lea」 他	渡邊海智	ウクレレ 渡邊海智
詩と音楽 大島博光詩集より 鳩の歌 他		朗読・歌 浪岡浩子 ピアノ 平木晶子 他会員有志
「鶴」 他	作詞 R. ガムザトフ 作曲 Ya.フレンケリ	合唱 千葉合唱団 指揮 安藤由布樹 ピアノ 河辺宏之

エピローグ

花は咲く
あの素晴らしい愛をもう一度
全員合唱



- ・JR千葉駅から徒歩20分 JR本千葉駅から徒歩12分
- ・京成千葉中央駅から徒歩10分
- ・JR千葉駅からモノレール「葦川公園駅」下車徒歩6分
- ・JR千葉駅からモノレール「県庁前駅」下車徒歩6分

平和を願う音楽家の会

■スタッフ

プロデューサー 井上喜義 舞台監督 岡村 武

●お問い合わせ ☎ 043-241-2697 (平木)

後援：三番瀬を守る署名ネットワーク 平和を願う千葉県美術家の会 核戦争防止千葉県医師の会 千葉県勤労者山岳連盟
若葉新春平和と文化のつどい ちばコープくらしと地域づくり活動助成事業より助成

き ず な （六甲全山リレー縦走）

佐藤かほる・本山春勇

六甲全山リレー縦走は名高いので、一度は憧れ挑戦したいものだと思っていた。ただ全行程が 56 km と長く、アップダウンが激しく完走した人は意外に少ないと聴く。不安のため兵庫県連に電話で問い合わせたところ、「同行しましょうか？」という言葉に思いがけない助け舟の援助をうけることになる。近頃よく絆ということを目にするが、今回ほど全国連盟の組織のきずなを強く感じた事はない。3 月 14 日深夜に東京駅八重洲口を夜行高速バスで出発し、翌 15 日早朝に神戸三宮駅バスターミナルに着く。JR 塩屋駅の改札口で兵庫県連神戸カタツムリの会の有志 5 名の方々と発対面の挨拶を交わす。そして各自紹介しながら総勢 18 名で。和気あいあいに六甲全山縦走に向けて第一歩を踏み出す。

須磨浦山上公園からの、明石海峡大橋と遠くにかすんだ淡路島、それにポートアイランドと神戸港・大阪湾と広がる展望の美事に歓声をあげる。

旗振山、鉄拐山を過ぎ高倉山を下ると団地の中を歩くようになる。スーパーや銀行などの街中で迷いやすいと聞いていたが、神戸カタツムリの会の皆さんの先達で難なくクリアする。梅尾山へは 400 段近い心臓破りの階段が続き一気に汗が噴き出す。横尾山を越えると岩稜歩きで「馬の背」と呼ばれる須磨アルプスの核心部である。全山縦走路は横尾の住宅街に下り、高取山へと登り返す。月見茶屋や安井茶屋など適度に茶店があり、休憩に良い場所になっている。住宅街の丸山町を抜け神戸電鉄の鶴越駅の前を通り、菊水山をめざす。ここからは山道となり急登が続く菊水山となる。菊水山山頂が 15 時を過ぎており、今晚の宿オテル・ド・摩耶には歩行 4 時間余りかかることから、神戸カタツムリの会の方の勧めもあり、5 名が神戸カタツムリ会の 3 名の方々と計 8 名で鈴蘭台へ下山することになり、残りが鍋蓋山や再度山を経て市ヶ原へ下山することになる。鈴蘭台下山組は神戸電鉄菊水駅から地下鉄に乗り継ぎ新神戸駅へのコース。市ヶ原下山組は天王吊橋を渡り、アップダウンの続く鍋蓋山や再度山大竜寺を経て市ヶ原へ、桜茶屋の前を通り布引谷口の遊歩道を進み新神戸駅へのコースをとる。いずれの組も新神戸駅からは、オテル手配のタクシーでオテル・ド・摩耶に向かうことになる。

一方奈良からは地下鉄新神戸駅を布引の滝を左に見ながら布引谷に沿った遊歩道を歩き、市ヶ原の桜茶屋に着く、秋には全山紅葉の蕎麦らしい所だが、樹々はまだ冬の眠りから覚めていない。ぶらぶらして皆と合流できればと思い、2 度ほど電話をかけたが通じない、荷物が重いので早めに出発する。遊歩道から天狗道の急登に入る。雑木林の中の小径は整備されており。要所には道標があるので迷うことはない。ただこの道は標高差があり岩場などがある。全山縦走

コースのなかで一番難関のところである。稲妻坂にかかろうとする頃電話がかかってきた。現在地を確認すると。「菊水山頂であり、一組はここから新神戸へ向かって下山し、もう一組は市ヶ原を経て新神戸へ下山する」とのことであった。菊水山から市ヶ原まで歩行2時間あまりかかるので。待たずに出発したのが正解である。学校林道の分岐を過ぎ、コブを2つほど越すと露岩の登りとなりアルペンムードである。岩場に腰を降ろして眼下に広がる大阪湾を眺め一息入れる。岩場を過ぎコブを登り下りすると、電波塔が建っている摩耶山が見えてくる。ひと登りすると舗装路となり NHK のテレビ電波塔の前に出る乗用車はここまで入ることができる。少し進むと右側に案内版があり、「摩耶山山頂 80m 先の天狗岩の裏側」と書かれている。天狗岩の周辺を見て回り、真裏に赤く塗られた石柱を見つける、何も書かれていないが、これが最高点だろうと一人合点して戻る。摩耶山史跡公園・青谷道・上野道方面への道を右に分けると、すぐそこが普通山頂と呼ばれている掬星台に出る。売店や展望台やトイレがあり、植栽の手入れも行き届き公園になっている。夕刻とあって女子大生らしき2人組がいるのみで静寂そのものである。ここからは須磨から神戸港や大阪港まで一望できる。全山縦走路のなかで、ここほど広く展望できるところはない。掬星台からは車道に平行して全山縦走路がついている、途中野外音楽堂の道票があるので立ち寄ってみたが。極く小さくわざわざ見にゆくほどのものではない。コブを下るとオテル・ド・摩耶がまえにでた、17 時少し前の到着である。鈴蘭台へ下山組が 18 時 30 分頃に着いた。無事到着の再開を祝し、何はおいでもと盃をかたむける。会の近況や、神戸カタツムリの会の方々にお世話になり、そのうえイカナゴの佃煮（クギ煮）とタオルのハンカチーフを土産にいただいたことなどが話題になる。そして酒の肴に早速イカナゴの佃煮を御相伴にあずかる。

翌朝掬星台からの眺望に多数の人がでかける、夜景と違い広角に大阪湾が見られるので充分堪能できたようだ。

春まだ浅い六甲山の樹々は色彩の変化が見られない、そうしたなかを 8 時 45 分に出発する。車道をすぐ離れて雑木林の摩耶別山への登りとなる。人と行き交うこともなく、縦走路は車道を離れれば登り、下っては車道に出会うことの繰り返しが続く、杣谷峠や三国池、ダイヤモンドポイントやノースロードと進み六甲記念碑台につく。一人が大阪に用事があり六甲ケーブルで下山のためここで別れる。

神戸ゴルフ倶楽部のゴルフ場の間を通るようになる。土曜日なのにコースでコンペをしている人が見られない。平坦な道が続き六甲ガーデンテラスにでる。ここは有馬温泉からの六甲有馬ロープウェイの山頂駅が近いことと、登山の石切道との合流地点のため、ハイカーや観光客で賑わう、六甲銀座と言われて

いる所である。ここからまた車道を離れ六甲山最高峰を目指す。遠くに見えていた最高峰（931.3M）にはほぼ計画通りの時刻に到着する。山頂には2つの広場があるが、人気の山だけあって人・ひと・ヒトである。一隅のスペースを見つけ車座になって昼食をとる、神戸カタツムリの会の方にいただいたイカナゴの佃煮（クギ煮）が全員に振舞われる、“おいしい”貴重なものをありがたく頂く。一軒茶屋の前の広場には、明日の縦走競技会を控えてテントが張られ、スタッフが準備に追われている、ここがゴールになるらしい。有馬温泉方面への道を左に分け車道を進む、ほどなく東六甲縦走路に入る、道標に宝塚塩尾寺まで12kmとある、山腹を巻く平坦な道が続き船坂峠につく、万一の時のエスケープルートとして船坂への下山路が延びて。いる。多少の登り下りがあり大谷乗を過ぎる頃、梢越しにロッククライミングのゲレンデ蓬莱峡の奇岩が見える。讓葉山越すと道が一変し、岩石や階段の急な下り坂になる、モトクロスと云うのだろうか、自転車で降りてくる猛者に出会い驚く。坂がゆるやかになり由緒ある古刹塩尾寺につく。六甲山全山縦走路はここで終わりとなる。舗道をおくくようになり、市街を眺めながら宝塚駅（JR・阪急）に向かう、新蓬莱橋の手前で勢揃いする。リレー式にはなったがパーティとしての六甲山全山縦走の目的は達せられ、終了した。ここからは新幹線新大阪へ、奈良へ、京都へそして宝塚温泉街でゆっくりし深夜長距離バスで東京へと、各々行き先が異なるため、2日にわたる人のきずなど全山縦走の思い出を胸に一応解散することになる、思えば長い道程と登り下りの練りよく耐えてきたものだと感じる、だからここでの解散は苦労の割には淡泊なフィナーレであった。

◆ 山行日 2013年3月14日（夜行バス）～15日～16日～17日（夜行バス）

◆ 参加者 山の会らんたん（千葉県連） 佐藤か 宮本 横田 市橋

中広 府川 小林 鴻嶋 後藤 長妻 天野 安部 佐藤ま
神戸カタツムリの会（兵庫県連）原戸 田川 山名 島川 庄治
奈良ハイキングクラブ（奈良県連）本山（元山の会らんたん会長）



念願の世界自然遺産『小笠原』紀行

東葛山の会 安彦 秀夫

3月23日（土）～29日（金）の7日間、『WOB旅・ハイキング同好会』主催の世界自然遺産『小笠原：父島・母島・南島』に、総勢17名で行ってきました。

この会が野田市内にあることは、ミニコミ誌で以前から知っており、いつかは参加してみたいなあ…とと思っていましたが、踏み切れないまま今日に至っていました。

かなり前から『離島』に関心があり、『小笠原』にも強く惹かれていました。特に、沈水カルスト地形の島『南島』です。その中でも、『扇池』です。この島は、東京都認定ガイドの同行で初めて上陸可能で、1日当たりの上陸人数も制限されています。

昨年末、『小笠原』を、この会で計画していることを知り、且つ、会費が格安と思い、日程を調整し、長年の思いを叶えるために参加しました。

① 23日（土）

自宅前から迎いのマイクロバスにて竹芝桟橋へ。『小笠原』は、『東洋のガラパゴス』と言われており、外来種の侵入を防止するため、靴底を洗って乗船しました。

午前10時、期待と船酔いの不安を抱き、出港。

② 24日（日） 父島島内ドライブ

『25時間の船旅』を終え、初夏を思わせる父島二見港着。4泊お世話になる民宿『シートピア』に荷物を置き、レンタカー3台に分乗し、『三日月山展望台』、『宮之浜』、『長崎展望台』、『旭平展望台』、『初寝浦展望台』、『亜熱帯農業センター』、『小港海岸』…と、ドライブを楽しむ。

夕食後、『ナイトツアー』を堪能！『オガサワラオオコウモリ』が椰子の木に群がり夕食中でした。その後、『グリーンペペ』を見に行ったのですが、シーズンが早く残念ながら光り輝く姿に接することはできませんでした。

③ 25日（月） 父島周遊クルーズ

念願の『南島』上陸の日！しかし、海が荒れており上陸は非常に難しいらしい…でも、行くだけは行って欲しい！『現地に行ってから上陸するかどうかを判断する…』という条件付きでクルーザーに乗り込み出港！

先行していた小さな船から『なんとか上陸できそう！』と無線が入る。『上陸地点は足場が悪いので自信の無い人は遠慮して下さい』と船長から説明があり、年配の人はクルーザーに残る。小さな舟に乗り換え、10分程荒波に揺られ、波の無い静かな湾である『鮫池』に入り、船の舳先を岩場に付け、よじ登るようにして上陸。

ガイドから島内での注意事項を聞いた後、石を敷き詰めた道を外れないように登り、小さな尾根に出たら……観光ポスターやガイドブック等で何度も見ていた『扇池』が……、白砂を下り、ズーと思い焦がれていた風景のど真ん中に……、振り返ると、白砂の斜面に小さな何かが所狭しと……『ヒロベソカタマイマイ』でした。

心満たされた後、クルーザーに戻り、波静かな湾に停泊し昼食。そして昼寝……。

その後は、『ホエール・ウォッチング』。いつどこから姿を現すか…全く分からず、ジーンと360度注意を払って見続けること2時間程…。

『3時方向!』、『9時方向!』の船長の声で、右を見たり左を見たり…。遠くでブリーチングする姿などを見ることができました。欲を言えば、間近で見たかったなあ…。

夕食前に、一人で民宿の裏手にある『大神山公園』の尾根沿いの遊歩道を歩く。二見港に係留しているカラフルなクルーザーや街並みが箱庭のように眺めれ、チョッと得した気持ちになりました。

④ 26日(火) 乳房山ハイキング

靴底を洗淨して乗船し、2時間程で母島・沖港に到着。レンタカーにて島内半日観光を楽しむ皆と別れ、小笠原母島観光協会にて『乳房山』登山届けをし、足早に歩き始める。途中、予約していた弁当を受け取り、いざ登山口へ。

鬱蒼と茂るジャングル(?)の道を一気に登り、休憩所に。沖港の集落を見ながら一息を入れ、また登り続ける。きつい勾配を登り詰めて山頂に。どこまでも続く青い海と崩れた石門が印象的でした。

登頂証明のために、山頂標識にある『乳房山登頂記念463m』の銘版を、観光協会から貰ったクレヨンで紙に写し取り、昼食休憩した後、一気に下る。

蒸し暑く太陽がギラギラ照りつける中を、汗を拭き拭き、時間を気にしながら、そして、時折り大展望を楽しみながら街まで降りる。

『ロース記念館』に立ち寄った後、今降りてきた山を何度も振り返りながら港に向かう。船の出港時間には、まだ余裕があるので、『小剣先山(112m)』に立ち寄る。頂上直下は、幅の狭い岩だらけの急峻な道だが、登り詰めた山頂からの展望は抜群!

港に戻り、観光案内所にて『乳房山登頂記念証』を受け取り、父島に戻る。

民宿からワゴン車をお借りし、『三日月山展望台』へ。夕陽を待つ間に鯨も見られ、歓声が飛び交う。次第に空が赤くなり、海に沈む夕陽が見られるのでは…と期待したが、雲の中に隠れてしまい、そのまま出てきてはくれませんでした。

⑤ 27日(水) ハートロック(千尋岩)ハイキング

『千尋岩』は、父島の南、円縁湾に面した断崖絶壁で、海側から見ると赤い岩肌がハート型に見えるので『ハートロック』と呼ばれているそうです。南島や母島に行く船上から、大きな赤茶色のハートを眺めることができました。(ネーミングに納得!)

その絶壁へは、東京都認定ガイドの同行が義務付けされており、入山口で、靴底を洗淨し、更に消毒をして、いざハイキング開始。

『マルハチ』を初め、固有種・希少種・外来種の植物の説明(全て忘れてしまいました!)を受けながら、ハートロックに到着。とは言っても、単なる絶壁の上に出ただけですが…。但し、眺めは最高!『南島』も見えます。

昼食を摂り、先ほど来た道に戻る。途中『ガジュマル』の大木の密生地帯に立ち寄る。蔓にぶら下がり『ターザンごっこ』を童心に返り夢中になる。

最後の夜ということで、同室の3人で街に出る。でも、殆どの店は閉まっており、『島ラーメン』を食べただけで宿に戻りました。

⑥ 28日(木) 父島ドライブ&ハイキング

空模様は今にも雨が降りだしそうであったが、なんとか午前中は持ちそうと判断し、

出港までの時間を利用して、レンタカーにて、父島初日にドライブしていない場所巡りとハイキングを楽しむことにする。

同行者4名と一緒に、『旭山』、『傘山』、『中央山319m（父島最高峰：登山可能な山として）』を軽くハイキングする。各山頂からの展望は抜群で、皆「得したね！」と満面笑みでした。

『コペペ海岸』に寄った後、最後の『洲崎』では、磯の香りがし、地元の人々が何かを採っていました。小さな『貝（名前は忘れました）』でした。何でも味噌汁用の出汁に使うそうです。そう言えば、宮之浦岳に行った時の屋久島の民宿でも、食べる所が全くない貝が出汁に使われており、味が良かったことを思い出しました。

「シャコ貝がいる！」の声に、写真を撮ろうと岩場を進んだら、すってんころり！とっさにカメラを守りました。その結果、左手を5cm程切ってしまいました。キズが深かったようで血が止まらず、仲間が持っていた薬と包帯で処置をしました。（現在は全く跡形なく綺麗に完治しています。）

『境浦』では、太平洋戦争中（1944年）に魚雷攻撃を受け座礁した『濱江丸』の赤錆びた姿を眺めることができました。

港のあちこちで、送別会・壮行会等が開かれており、非常に賑わっていました。丁度年度末最後の出港ということもあり、島の住民全員が来ているのでは…と勘違いするほど大勢の人々が来ていました。私達がお世話になった民宿の女将さんもお孫さんと一緒に見送りに来ていました。

ドラが鳴り響き、出港です。歓声が飛び交います。ユニークな首飾りをし花束を持った乗客も、涙を堪えて手を振っています。

港を出ると、多くのクルーザーが後を追いかけてきます。反対側を見たら、私たちがお世話になったクルーザーも…。黄色のタオルを振って別れを惜しみます。しばらくしたら、クルーザーの二人が服を脱ぎ…そして…青い海に飛び込みました！

これが恒例の別れのシーン…と、知ってはいましたが、感激モノですね！

（皆さんも是非体感してみてください！そのためには、小笠原に行かなくっちゃ！）

⑦ 29日（金）

今年の桜の開花が例年になく早く、花見を半ば諦めていましたが、私達を待っていてくれたかのように咲き誇る隅田川沿いの桜をマイクロバスから眺めながら、野田まで戻りました。

長年の夢を達成でき、天候にも恵まれた思い出多い1週間でした。

原稿募集のお知らせ

「ちばニュース」は、千葉県勤労者山岳連盟の機関紙です。機関紙委員会が発行しています。発行月の前月20日が投稿締切りです。（・・・が、集まりません）当月の1日が発行日予定日です。原稿は、明朝 12p、上下左右余白2, 5でお願いします。

山の会の機関誌ですので、山行報告、あの人と行った思い出の山、山友紹介など、山に関する内容にしたいと思っています。写真があったら添付して下さい。ご協力をお願いします。

2013 年度 第 2 回ハイキング委員会 05 月 24 日 県連事務所

出席者 桑原、佐川、八巻、大田、小山、天野、中原、高見、吉澤、 9 名

議題

1、 房総ロングハイキング

第 30 回ロングハイキング 記念山行にする。 検討次回に考える。

日時 2014 年 1 月 25 日（土）26 日（日）

七里川温泉に予約済

2、 ちばニュース掲載引き続き行う事にする。 タイトル（山への想い） 雑感

7 月大田、8 月天野、9 月吉澤、10 月高見、11 月佐川、12 月中原、1 月山本、2 月佐藤、3 月菊地、4 月加藤、5 月桑原

※ 前月の 20 日までに「ちばニュース」当分の間、会長広木様メールまでお願いします。

3、 第 16 回 平日山行 バス利用 費用 ¥5,000- 雨天決行

日時 6 月 6 日（木） 花の時期 （つつじの頃）

場所 前日光 古峰ヶ原（こぶがはら）高原

参加者 松戸 3、シリウス 1、らんたん 5、かがりび 2、東葛 6、市川 3、ふわく 18、こまくさ 5、ちば山 4、 計 47 名 千葉発 25 名 松戸発 22 名

スタッフ

C L 桑原、 S L 小山、 会計佐川、 班長各会、 記録各会、無線桑原 名札桑原
しおり 名簿程度お願い（8 写真あったら送る。）

山行概略

古峯神社（トイレ休憩のみ）＝古峰ヶ原峠迄バス移動＝10：00 出発＝50＝天狗の庭＝5＝三角点＝10＝三枚石＝10＝つつじ平＝20＝方塞山（昼食）＝1：05＝横根山＝20＝井戸湿原＝30＝象の鼻＝25＝前日光ハイランドロッジ（トイレ他休憩）バス乗車＝（途中「深山巴の宿」見学）＝古峯神社参拝の後 帰路 16：00 時乗車

歩行時間 約 4 時間 30 分（休憩含む）

※ 雨天の場合にはハイランドロッジまで車で行き、井戸湿原又は象の鼻でつつじ観賞の後古峯神社を参拝：公園散策（花ショウブ等観賞：入園料自己負担）

バス 千葉発： 6 時 15 分集合出発 1 台 25 名

鎌ヶ谷 6：00＝新松戸流経大前 6：30 集合出発 1 台 22 名 計 47 名

古峯神社 着 9 時 30 分から 10 時予定

その他： 全国ハイキング委員長 委員会見学の件

次回委員会に招待しても良い。

次回委員会 2013 年 06 月 25 日（火） 19：：00 県連事務所

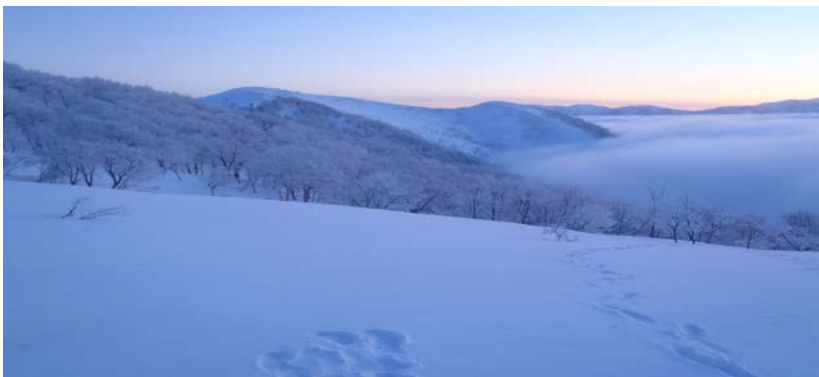
救急法机上講習会の案内

千葉県連教育遭難対策委員会

近年の県連各会での遭難事故発生現況を踏まえ、本年度より新たに掲題の講習会の取り組みを行います。

事故発生時の当該パーティ内でのレスキュー『コンパニオンレスキュー』の技術と知識の習得を目的として、下記の通り実施します。

参加者での実技反復により内容習得を主目的に行いたく、各会よりの積極的な参加を望みます。



記

日時：7月21日（日） 13:00～17:00

場所：船橋市中央公民館（JR船橋駅南口 歩5分）

内容：・救急法 1)手首と足首の骨折

2)捻挫

・搬送 1)背負い搬送

講師：平井 昭（かがりび山の会）他

定員：60名

持参装備（個人）：テーピングテープ 又はガムテープ（幅 35～50mm）

ザック（30L以上：新規購入不要） ストック 1-2 本 タル 1-2 本

参加費：500 円／人（資料代他）

申込み：各会毎に 7/12(金)までに遭対委員会青山へ。 htrkt490@ybb.ne.jp

会名と参加人数を連絡下さい。

問い合わせ先：遭対委員会岡田

e-mail： ken-ichi@f4.dion.ne.jp 又はtel/fax：043-271-4704

その他：終了後、有志による懇親会を予定。

県連統一クリーンハイク報告

自然保護委員長 菅井 修 (ちば山の会)

実施日 2013年5月 12日(日)

場所 七里川溪谷

時間 クリーンハイク 9:40~11:30

午後の講演 13:00~15:00

前日の雨も上がり、天気も回復した。例年多くの参加者があった、「ふわくHC」が今年は会行事のため参加者が少なく、参加者は15名となってしまった。参加会の確認と作業場所の簡単な説明後9:40より作業を開始した。

昨年度作業を行った所には、ほとんどゴミが無いがその上流及び下流にはまだかなりのゴミがある。船山を中心とする班は川下に、ちば山を中心とする班は札郷トンネルへと、2手に分かれた。

ちば山班は、ガードレールにロープを固定し安全を確保しながら斜面を下り、散乱していた様々なゴミを回収。古いジュースカン等が多い。道路に引き上げ、次の場所に移動した。道路に揚げたゴミを集積場所に集める。船山班も同様にかなりのゴミを回収していた。今年もまた山蛭の被害にあった者が複数出た。



七里川温泉で、風呂に入り汗を流して昼食をとって、午後の講演に備えた。

13:00~講演 岩波新「ああダンプ街道」の著者
佐久間 充 先生のスライドを使った講演。

日本の高度成長期、浅間山 山砂採取と、採取跡地への
県外からの産業廃棄物の投棄等、経済状況も踏まえ豊富な
資料を基に房総半島のすさまじい状況が示された。

また、廃棄物処理場設置計画に対する住民の反対運動についても説明があった。昨年と比べ少ないのは粗大ゴミが少なかったためである。今回のクリーンハイクで札郷トンネルまでは、ほぼきれいになった。参加の皆さんご苦労様でした。「ふわくHC」は同日、鹿野山にてゴミ5,0kgを回収した。



- ・参加者数 5会15人
- ・ふわくHC 2人
- ・ちば山の会 5人
- ・こまくさHC 4人
- ・船橋山の会 3人
- ・茂原道標山の会 1人
- ・回収ゴミ総量 160kg

第 18 回足尾春の植樹デー参加報告

自然保護委員長 ちば山の会 菅井 修

かつて足尾の山は古川銅鉍の精錬時に出る亜硫酸ガスや鉛を大量に含む排煙により、周辺の山の木が完全に枯れ、山の土壌そのものが失われ、岩盤が露出し、草木が 1 本も無く大規模な山崩れや洪水を起こす荒廃した山だった。

足尾鉍毒問題では田中正造が有名である。

鉍山が閉山した後も荒れ果てた不気味な山肌はそのまま残った。1956 年から国や栃木県により治山・治水・砂防工事が初められた

1996 から「足尾に緑を育てる会」が民間活動として広葉落葉樹や実のなる木による植樹活動を開始。昨年までで参加人数は延べ 15,410 人、植樹本数は 66,200 本になる。初期のものは 10m 程になっている。

今回、千葉県盟からは、ちば山の会の広木、八角、菅井の 3 人が参加した。本部のすぐ上には、小中学校による体験植樹の木々がかかなり大きく育っていた。千葉県北部の小中学校の名もかなりあった。

今回の植樹場所は、第 1 回から 11 回まで植樹した場所の上で、土留め工事と、土担ぎ上げ後、斜面に土を入れた植樹用の棚が何段にも作られ場所だ。急な作業用階段を 800 段ほど上ると飛ばされるほど風が強く寒い。途中で苗木を 5 本程受け取り植える。朝日旅行会のツアーの人達までいた。植樹下山後、豚汁が振る舞われ初日が終了。我々は次の日も活動すべく残る。八角さんと近くの銅親水公園内の足尾煙害資料館に出かけ見学した。夜の懇親会で環境省の方と一緒にになった。今回の植樹とは少し違うが興味ある内容の話が出たので紹介する。

日光の山には「こまくさ」は無かったが、種をまいた人がいて、今はかなり増えて一見きれいだそう。しかし、抜くことになったそうです。理由は「こまくさ」は日本種ではあるが、日光には本来その場所には無いため外来生物に当たる。その場所の生態系そのものを変えてしまうという事です。種の保全・生物多様性を保つ運動の複雑さを考えさせられました。

2 日目、主催者の手伝いをしながら一人 10 本植樹した。今年の参加者は両日とも 700~800 人だったようだ。今回植樹した場所の横はまだ岩がむき出しの荒々しい崖が広がっている。まだまだこれからも植樹活動は続けられるとのこと。

お世話になりました栃木労山の皆様ありがとうございました。

- ◆ 本部テントに「ヤマトモ」のポスターを張り出し、参加者の高校生や高齢者をターゲットにリーフレットを配布した。

リーフレットを手渡されても、何なのか理解出来ないようであった。配布する側と手渡された方のギャップはどうしようも無く、手渡しと説明をワンセットに取り組む必要を感じた。栃木県連・理事長、全国理事・林氏、千葉県連参加者が熱心に配布していた。他の地方連盟の会員が大勢参加していたが、宣伝活動に加わる事が無かった。（残念）



戸隠コンサート&ハイキング

NPO法人ちば労山ゆう
理事長 吉田 哲治

- 日程：2013年5月18日（土）～19日（日）
- 場所：戸隠高原 音楽ロッジ・アコールド
- 参加会：ふわくハイキングサークル（14名）、ちば山の会（6名）、東葛山の会（3名）、君津ケルン山の会（2名）、シリウス山の会（2名）、船橋勤労者山の会（3名）、千葉こまくさハイキングクラブ（1名）、一般（3名）
計 34 名

古より修験者が参った戸隠は、自然に恵まれ四季折々に様々な登山やハイキングが楽しめる場所です。眼前には荒々しい戸隠山が聳えて登高意欲を誘う。そんな中に音楽ロッジ・アコールドがあります。

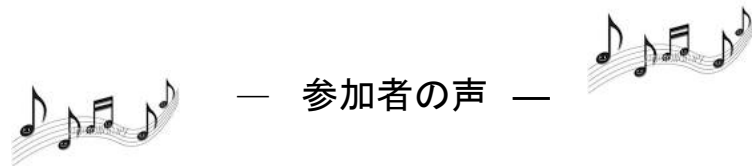
アコールドの主・糸賀民夫さんは相模労山のOBであり、かれこれ30年の付き合いがあります。そのアコールドでシンガーソングライターの横井久美子さんのコンサートが開催されると聞き、訪れたのが今年の5月でした。その折、大震災後は多くの宿泊施設がそうであるように、アコールドも客足が遠のき、経営的にかなり厳しいものがあると聞かされました。このところ、労山関係の宿泊施設が次々に閉鎖されてきています。この3月には谷川にある「葉留日野山荘」も営業を取りやめたと聞きました。残念でなりません。山を音楽を自然を愛する我々の砦であるアコールドはなにがあっても守らなければならない。そんな想いで、横井久美子さんの提案により「アコールドささえ愛隊」が結成されました。

今回のコンサートは、その時に提案された「春におくる3つのコンサート」のパート1となるものであり、1回目を我々労山関係が、2回目と3回目は他の団体の主管で行うというものです。1回目を担当するに当たり、演奏をどなたに頼んだものか考えたとき、まっさきに頭に浮かんだのが、昨年11月に船橋において開催しました「石巻支援の夕べ」に石巻より出演いただいた矢口清志さんでした。矢口さんご自身が被災者です。津波により自宅はもとより、楽器やこれまで創作された楽譜など、すべてを無くされても又、前に向かって創作活動を再開されている矢口さんしかいないと考え打診したところ、快諾いただきました。矢口さんの出演により、アコールド支援はもとより、東北への想いも込めた企画にすることができました。

内容的には「石巻支援の夕べ」の続編の格好になりましたが、今回のコンサートは楽しく歌声をメインに、そして、山やの企画であるからには、ハイキングも取り入れ、森林植物園の散策や瑠璃山にも登りました。幸いに二日間とも天気に恵まれ、最高の眺望が得られたのは幸いでした。また、石巻労山の菅野会長も参加され、アコールデの庭に「東日本大震災 鎮魂・復興祈願」の標柱を建てさせていただき、東北支援への想いを新たにしました。

参加された方から色々な感想をいただきましたので、コンサートやハイキングの内容については、そこから読み取ってもらいたいと思います。

NPO ゆうは、現地への災害支援の他、このような間接的な支援につながる企画も行っていきますので、今後ともご支援・ご協力よろしく願いいたします。参加いただいたみなさま、お疲れ様でした。



小山 真澄（船橋勤労者山の会）

あそこが痛い、ここが痛い、と、親の介護中、というキーワードが必ず入る自己紹介で始まった戸隠コンサート&ハイキングに参加してさせていただきました。船橋山の会からは吉田代表と桜庭さんと私の3人だけで、少々心細い気持ちでいましたが、みんな同類だという安心感がバス乗車後、間もなくして感じられたのでした。昨年の11月に船橋で開催された「石巻支援の夕べ」で司会を務めさせていただいたご縁で、矢口さん、菅野さん、そして糸賀さんには演奏だけではなく、いろいろなお話を伺うことができ、是非また機会があればお会いしたいと思っていましたので、今回の企画を聞いたときにはうれしく思いました。また戸隠高原のロッジ、というのも大変魅力的で、久しぶりに母の介護から開放されて思いっきり、歌と戸隠高原の自然に癒されたい！と、この企画に参加するのをとても楽しみにしていました。

実際お天気に恵まれて、雄大な戸隠山や高妻山などの山々を望み、美しい新緑の中



鏡池

を適度な運動量で歩いた瑠璃山ハイキング、ミズバショウ、カタクリの大群落、今では大変希少となったシラネアオイの繁殖地を見ることができて感激しました。

夜のコンサートでは矢口さんの鎮魂歌で震災の悲惨さや復興への願いを新たにしました。後半は歌声喫茶再来の様相に、経験の無い私は圧倒されてしまいました。

さて、楽しい思い出だけで終わるはずの2日間でしたが、新芽を取られたコシアブラのたたりか、仕事だと言われてデイサービスに預けられた母の仕返し、8日後の今も、首から胸にかけてのかぶれに悩んでいます。

最後に、企画から準備、当日の世話と、大変ご苦労頂きましたスタッフの皆様に心から感謝いたします。何から何まで大変満足でした。またよろしく願います。

戸隠、心に響く歌声

八角 洋（ちば山の会）

「サンソン(山村)でシャンソン。」「キンチョウでキンチョール。」東日本大震災鎮魂コンサートに続いてマスターのアコーディオン演奏が披露された。曲のつながりのシャイで誠実なマスターの“おやじギャグ”が印象的だった。アコーディオンの独特の響きとマスターの人柄の表れた演奏に否応なく引き込まれた。この日のために一生懸命練習したという思いがわれわれに伝わってきた。その後は二人の演奏家の伴奏で、時間延長の合唱となった。何曲歌ったのだろうか。皆、それぞれが長く心に留めていたような曲の久しぶりの大合唱であった。楽しい時間だった。



エンディング「大漁唄い込み」の大合唱

ハイキングは、一日目は戸隠奥社、中社周辺の散策。大正池を連想する鏡池と戸隠山の景色を眺める。池と新緑と山の色彩のバランスが何とも言えず、

この景色を絵に描けない自分が残念に思った。いつものようにとりあえず写真に撮る。二日目の瑠璃山は立派なスキーリフトがあり、冬はスキー場となる山だ。登りながら振り返ると大きな山が目に入る。だれかが高妻山と教えてくれた。戸隠山の脇にあって存在を誇示しているような大きな山である。知らなかった百名山を一つ覚えた。そして、遠く左前方高くには、鹿島槍や五龍など純白の北アルプスの稜線が連なっている。ゲレンデからの眺めもきっと最高だろうなと想像しながら帰ってきた。往復4時間の心地よいハイキングだった。また、戸隠神社では3本の杉のご神体に触れることができた。樹齢八百年のご神体にあやかろうと3本の杉にそっと手を触れてきた。

県連に加盟している会の登山とボランティア、2つの共通した思いをもったメンバーの長いバス旅であったが、これも親睦を深めるに良い時間となった。個人的には思いがけない出会いの戸隠コンサート・ハイクだった。

戸隠の杜を歩く

倉沢 とし子（ふわくハイキングサークル）

戸隠ははじめてです。雄大な荒あらしい山で、不思議な神々が宿る様な感じがしました。

麓の森林植物園の散策コースは小鳥たちの鳴き声と白樺・唐松の芽吹き、水芭蕉リュウキンカの群生 気持がゆったりとするコースでした。もう少しゆっくり出来たら大満足。残念なのは時間がなく戸隠神社の奥社まで行かれず、杉並木の参道を少し歩いただけが心残りです。

夜のコンサートは自ら被災者である矢口さんの演奏。、マーチのような軽快な歌のあと「あなたの事は忘れない」鎮魂歌が胸にズシリと響き、被災した実家を思い出しました。また、音楽ロッジ「アコールデ」の糸賀さんのアコーディオンによるシャンソンやタンゴの演奏。その後、歌声喫茶となり青春時代に戻り、みんなが大きな声で歌い心が一つになった思い出でした。

翌日は、東日本大震災の復興を願い3団体(石巻労山・千葉労山・ちば労山ゆう)連名の標柱を全員でたて黙祷しました。こんな形の支援もあるし、忘れてはならない事。先日岩手の姉から、同じ仮設の 56 歳の女性が一人亡くなったのよと電話があったばかりです。被災地のことを、原発の影響を自分のこととして考えていかなければと思います。

その後、瑠璃山に登り山頂は素晴らしいながめ北アルプスがズラ〜リと見え感激いっぱい。物凄く高い山に登った気分、下山時にはヨモギの新芽摘み、ほんの一握り取って帰りました。翌日は小豆を煮て草餅を作り、友達に復興ヨモギ餅よ 1700mの山頂で芽吹いたばかりよ！と、お福分けしました。

労山ゆうの支援活動ぜひ多くの方に参加して現地をみてきてほしいです。
今回は楽しい企画をして頂きありがとうございました。

佐野 伶子（東葛山の会）

船橋で開催された、石巻支援のコンサートの石巻の「矢口清志さん」の演奏が忘れられず、しかも故郷の戸隠でコンサート&ハイキングがあるというので参加しました。

5月18日 奥社駐車場で、船山・君津ケルン・シリウス・東葛・ちば山・ふわく・こまくさ・と他3名の33名で4班に分かれて森林公園を散策。鏡池に2時集合ということで出発した。

雪の残る戸隠山を背にニリンソウ・アズマイチゲ・キクザキイチゲ、カタクリ・水芭蕉・リュウキンカ・・・花がいっぱい。素敵な光景です。あまりゆっくり鑑賞したので、最後は早足です。

鏡池は、穏やかにさざ波を浮かべ、湖畔の木々は芽吹き of 優しい色合いです。青空に雪化粧の山、飛行機雲のおまけまでついて、思わず笑みが出ます。中社まで林間の道を約1時間、それからバスで40分。宿に着いて、周りを散策、越水ヶ原の水芭蕉は戸隠のものよりもっと可憐で、またまた感動です。

夕食のあとのコンサートは、第1部は、大震災復興支援「人は旅人、われ、歌う旅人」石巻の矢口清志さんの歌と演奏。鎮魂歌「あなたのことは忘れない」と東北の山々の歌。その歌と演奏にまた感動でした。

第2部はアコールドのご主人で、元相模勤労者山岳会会員で、日本アコーディオン協会理事の「糸賀民夫さん」の演奏。

第3部は美味しいケーキとコーヒーのブレイクの後、アコーディオンとギター、



みんなで「鎮魂・復興」の標柱を建てる

ハーモニカの伴奏で本当にいろいろな歌を唄いました。歌の力・唄うことがこんなにも心に響くとは意外でした。唄っているうちに一瞬で忘れていた青春時代にタイムスリップしたようで、時間を延長して10時になってしまいました。とても楽しかった。でも興奮して眠れないで困ってしまいました。「坊がつる讃歌」を唄ったため、目を閉じると、山の会に入って何回か聞く機会があったのに「どこ

かで聞いたな」くらいしか思わなかったあの歌を、学生運動の盛んだったころ、薄暗い部室で先輩が唄っていたのをたった一度だけ聞いた記憶が蘇った。そんなことを思うと矢口さんの震災の歌は、忘れてはいけないこと と思うけれども聞くのも辛い。演奏する人はもっと辛い。でも歌にして伝えることが一番良いことのように思います。最後に矢口さんの「大漁唄い込み・石巻地方の民謡」に復興を願う強い力を感じました。

5月19日

アコールデの庭に、東日本大震災鎮魂の標柱をたて、黙祷を捧げてからハイキングに出発。

「宿から歩いていける瑠璃山（めのうやま）1748m」宿の標高が1300mくらいだそうなので、寝不足でもだいじょうぶかな？上り約2時間。スキー場の登りはきついけれど、振り返ると高妻山が目の前、素晴らしい景色に感嘆の声を上げる。あんなにいい山だったかな。この景色を見たらまた登ってみたいくなりました。頂上からは戸隠、高妻山、北アルプスの峰々まで、反対側にのっそりとした飯縄山が見える。地図を広げて山を確かめる。今度はあの山に行ってみたいな！下山はスキー場を自分のペースで下る。眼下に昨日の鏡池が見える。

途中でフキノトウを見つけ摘む。小川の近くでコゴミを見つけまた摘む。蕨も1本だけ見つけた。山菜は嬉しい。下り約1時間半くらいで宿についた。風呂に入りさっぱりして、中社の岩戸屋さんで美味しいおそばをいただき、中社を散策して帰路に着きました。

本当に大満足の二日間でした。スタッフの皆さんお世話になりました。ありがとうございます。

野鳥たちに、そしてハイカーたちにも楽園だった

大木 孝子（松戸・シリウス山の会）

「戸隠コンサート&ハイキング」は、最高の山行日和だった。一週間くらい前の天気予報では、曇り後雨だっただけに「良かった、良かった」を何度も繰り返していた。

森林植物園は小鳥たちの楽園、これまでも山の中で小鳥の鳴き声をよく聞いたが、こんなにたくさんの鳴き声を聞いたのは初めてだ。環境がいいのだろう。鳥たちを見よう！写真を撮ろう！とするバードウォッチャーもたくさんいた。大きな望遠カメラを持ったウォッチャーたちにとって、緑に囲まれ、水芭蕉やカタクリ、リュウキンカなどの花々にカメラを向けながら歩くわれわれにとっても楽園だった。

戸隠・鏡池は5年くらい前の秋に来た。その時は曇りだっただけに今回はラ

ッキーだった。風もなく、暖かくて、素晴らしい景色に囲まれながら、時間があつたらひと眠りしたいくらいだった。

適度な散策の後の「アコールデ」での入浴、野菜が沢山の豪華夕食。そして石巻のシンガーソングライター・矢口清志さん（ギター）と「アコールデ」オーナー・糸賀民夫さん（アコーディオン）のコラボレーションは、最近、コンサートに遠ざかっていた私にとって、素朴で、飾りのない親しみのあるとてもいい催しだった。みんなで歌った曲の数々、一度にあんなにたくさんの歌を歌ったのも久しぶりだ。年代が同じ（一部、若い人もいたが）ということもあるだろうが、歌集から選ばれて出てくる歌をみんなよく知っている。ギターとアコーディオンに合わせて思いっきり大きな声で歌った。



戸隠山を眺めながらの下山。右が高妻山

翌日の瑠璃山（メノウサン）、からの眺望が素晴らしい！北アルプスの山々、小さくだったが槍ヶ岳も見えた。だが何と言っても高妻山だ。近いから当たり前ののだが、高く、どっしりとし

て形もよく、いい山だった。も

ちろん戸隠山も素晴らしかった。山々を眺めながら歩く人たち、山菜取りに夢中になる人たちも、みんな楽しそうだった。

そして、エンディングは昼食の蕎麦だ。美味しかったあ！天ぷらがもう一品あつたら言うことなし！（すみません）。こんなに楽しい山行が出来たのも、スタッフの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

NPO法人「ちば労山ゆう」の会員が200名を超えました。
「被災地に寄り添った支援」を合言葉に、会員の皆様と共に支援活動を進めていきます。会員になってくれる方の紹介をお願いします。

（正会員 101名 賛助会員 109名 合計 210名）

「千葉土建」記念行事参加報告

千葉県連盟 会長 広木 国昭



5月19日（日）、千葉土建のウォーキング大会に参加しました。

千葉土建は「県内の建設労働者・職人・親方の経済的・社会的地位の向上をはかり、県内の建設業界の民主化」を目指し、1972年6月に「千葉土建一般労働組合」として活動を始めた。労山の「新特別基金」と同様に自主共済を運用しています。

この自主共済が、保険法の改正により危うくなり、自主共済を守るため県内の民主団体の呼び掛けで「千葉県懇話会」が結成された。千葉土建も千葉労山と共にその中心になって活動しています。この活動で培った友好関係を継続しています。

今回の記念行事がウォーキング大会との事、これならばお手伝い出来るだろうと思い参加させていただきました。

当日は、心配された雨空をふき飛ばし、県内から大型バス・自家用車で370人を超える参加者が集まり。大きなパワーと強いつながりを感じました。

ウォーキング大会では、全日本ノルディックウォーク連盟の田村氏と中村氏に、ノルディックウォークを指導していただいた。ノルディックウォークとは、2本のポール持って歩く、新しいスポーツです。ひざ・腰の負担を軽減するので、高齢者や生活習慣病予防に効果があります。最近では、街中でも見かけるようになりました。

支援物資販売にも協力していただきました。

NPO法人「ちば労山ゆう」「産直販売」を掲げて、支援活動への協力をお願いしました。NPO設立の経緯、具体的な支援活動への質問もありました。

ヤマトモのリーフレットを配布し、「一人でも入れる千葉労山」をアピールしました。

今後も、友好団体の行事に積極的に参加し交流を深めると同時に、お互いの組織強化・会員拡大等の協力を持続して行きたい。



「ゆう」産直販売 気仙沼より

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX: 043-306-1190
Eメール: rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax: 043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号: ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名: NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ 県連事務所リニュアルのお手伝い募集
入居時以来、手つかずの状態でしたが、手狭になってきました。資料の整理も出来ていません。収納スペース・本棚などを整備して使いやすくしたいと思います。
一人でもお友達と一緒に大歓迎です。
連絡は: 広木までお願いします

NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページからも入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
 - ・入会情報(3月末)
 - 正会員数 101名
 - 賛助会員数 109名
 - 合計 210名
- 常時、会員を募集しています。
入会連絡は、上記アドレスまで！
NPO「ゆう」支援活動のお知らせ
6月15日(土)・16日(日)
7月13日(土)・14日(日)
に実施します。
一人でも参加出来ます。
上記、問い合わせ先まで！

支援物資のご案内

三陸産・気仙沼直送の

「おさしみわかめ」

「おさしみこんぶ」

「くきわかめ」

極旨・三兄弟が入荷しています。
問い合わせ・注文は下記アドレスに、多少にかかわらずご連絡を下さい。

danphiro@zpost.plala.or.jp

090-8316-2020

県 連 活 動 予 定 表

6月		行事予定	7月		行事予定
1	土		1	月	
2	日		2	火	役員会
3	月		3	水	
4	火	役員会	4	木	
5	水		5	金	
6	木	ウィークデイ山行	6	土	全国連盟フォーラムin神田
7	金		7	日	
8	土	ワンコイン講習会(船橋西部	8	月	
9	日	公民館 13時より)	9	火	
10	月		10	水	
11	火		11	木	
12	水		12	金	
13	木		13	土	NPO支援活動
14	金		14	日	
15	土	NPO支援活動	15	月	
16	日	//	16	火	
17	月		17	水	
18	火		18	木	理事会
19	水		19	金	
20	木	理事会	20	土	
21	金		21	日	
22	土		22	月	
23	日		23	火	
24	月		24	水	
25	火	ハイキング委員会	25	木	組織委員会(拡大部会)
26	水		26	金	
27	木	組織委員会(拡大部会)	27	土	
28	金		28	日	
29	土	全国組織担当者会議	29	月	
30	日	(全国事務所)	30	火	
			31	水	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所には常駐者はいません)

発行責任者 : 吉田 哲治 編集責任者 : 広木 国昭

問い合わせ先 : 千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ